

特集

アートに懸ける

「私」だけでなく「私たち」の絵を描きたい——。

2019年のつなぎ美術館の滞在制作プログラムへの招聘をきっかけに、

津奈木町へ移住した地域おこし協力隊・大平由香理さん。

多くの人と関わりながら、作品を生み出してきた

大平さんのこれまでの取り組みを特集します。

その3年間の活動から、津奈木町のアートの未来を考えます。





アート × 体験

大平由香理アート体験ツアー 津奈木オリジナルの絵の具づくり

外部から委託されたアート体験ツアーを定期開催。参加者は土地の石や砂などをくだいてオリジナルの絵の具作りを体験しました。



アート × 図書館

もりのちいさな図書館づくり 手作り図書館、交流の場に

図書館の壁画を制作。デイサービス利用者、職員、子どもたちにも壁画に手形を押してもらいました。みんなで描いた明るい山の風景が輝いています。



アート × 教育

アグリビジネスチャレンジ事業 絵の描き方をアドバイス

小学生が育てたサラダ玉ねぎ。全国の購入者へ出荷される段ボールには、大平さん協力のもと小学生によって町の名所や柑橘、魚介類などの特産物を描いてきました。



Profile おおひら・ゆかり

1988 年岐阜県生まれ。東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻日本画研究領域修了。人間の力が及ばない大自然を固有の視点でとらえ続けている。「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ」への参加を機に 2020 年 7 月に津奈木町へ移住。

「少子高齢社会が進む中で必要とされるアート、共に寄り添えるアートはどんなものなのかを形にしていきたい」と、3 年前に津奈木町の地域おこし協力隊になった大平由香理さん。日本画家として全国各地で制作活動した経験を生かしながら、本町のアートに新しい風を吹き込みました。6 月に任期を終えた大平さんに、改めてアートへの思いと、3 年間の活動について聞きました。

アート × 地域おこし協力隊

アートによるまちづくりへの 担い手の一人になりたい

津奈木町との出会いは、つなぎ美術館が 2014、19 年にかけて毎年 1 人の画家を招いて実施した「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ」への招聘が縁でした。この事業は地域と交流しながら作品を制作し発表する企画。滞在制作をする中で、町の「アートによるまちづくり」により深く関わりたいと思うようになり、さらに 3 年間、地域おこし協力隊として活動することを決めました。

任期中は美術館業務を日常的にサポートしながら、作品制作を続けてきました。着任時は同館 20 周年を迎える前年で、準備段階からさまざまな企画に従事。柳幸典つなぎプロジェクトでは、「入魂の宿」の敷地内に植物を町民と協力しながら、栽培や植え替え、水やりや除草作業といった、定期的な植生維持管理業務などを関係各所と連携して行いました。たくさんの方の町民の皆さんのご協力のもと、



2019 年滞任時に制作した《つなぎ》。つなぎ文化センターに常設展示されている

環境省のコンテストで賞をいただくことができました。この他に、展覧会の設営作業やイベント対応などに携わりながら、常時アートをきっかけに訪れるアーティストや町外の人を町につなげる役割を担いました。アートの現場は常に柔軟な対応が求められるので、今までのアートに関わってきた経験を生かすことができました。個人の活動では、近くの小学校へ壁画制作や授業の一環として絵本づくり、水俣・芦北地域の美術教員向けの技法講習会、外部から委託されたワークショップなどを通じたアート体験ツアーを企画。他には、町を描いた風景を全国各地の美術館などで展示し、町の周知に努めました。町で暮らすことでしか描けなかった風景や作品を作りました。



《入魂の宿》の植栽は大平さんが中心に呼びかけ、長期にわたり多くの住民が参加した

艇庫に描かれた迫力ある赤い龍

ドラゴンボートチーム「津奈木海龍」の艇庫の扉に約1か月かけて、大平さんが赤い龍を描き上げました。代表の柳迫好則さん(大泊)から依頼を受けて制作。イメージを膨らませるため、海龍の練習や大会を見学した大平さん。「エネルギーがほとばしり、矢のように走り抜ける姿を表現したかった」と話します。龍が今にも動き出しそうな出来栄にメンバーたちは「この龍に負けないように私たちも気合いを入れて頑張りたい」と意気込んでいました。



梅雨の合間に天候を見ながら短期間に集中して描いたそう



6月18日(日)に壁画のお披露目会が開かれ、メンバーと一緒に記念撮影



大平さんがデザインし、ごつごつした岩肌や突端にはためく国旗が描かれています。クッキーは環境や健康に配慮して無農薬の小麦粉や米粉などを使用。小麦粉を使った「チョコ」と「バター」、米粉を用いた「お茶」と「酒かす」の4種類。津奈木産の柑橘類が入ったパイやマドレーヌなどが入った「津奈木ナチュラルBOX」として美術館とあん・さんくで販売中です。同館2階の喫茶室では出張カフェが開かれ、展覧会をイメージしたスイーツをパティシエの長友美波さんが考案し、全メニュー完売するほどのにぎわいを見せました。次回の出店は成果展最終日の7月17日(月)です。



出張カフェでスイーツを盛り付けたときに使用した器は大平さん自らが陶芸教室で焼き上げた



重盤岩を描いたクッキーなどが入った「津奈木ナチュラルBOX」。7/17(月)までは美術館でも購入可

アート ×

成果展「波をつなぐ」

4月22日(土)からつなぎ美術館で始まった成果展「波をつなぐ」。大平さんの3年間のアーティストとしての滞在は、芸術が手段ではなく目的としての価値を有することを明らかにする試みでもありました。町民と共に作り上げてきた成果展の様子をお届けします。

「津奈木のフウド史シリーズ」は、マナガタ(マナガツオ)の煮付け、刺身、えび飯など郷土料理の絵が並びます。町内の高齢者施設の入所者にアンケートで思い出に残る料理やエピソードをたずね、それらが描かれることで当時の町の生活の様子を垣間見ることが出来ます。町の四季や時間の変化を8点で現した《流転》、自宅から眺めた海と灯台の風景を描いた《日常》といった作品もあります。会場の奥にあるのは、町のシンボルである「重盤岩」を、和紙をつなぎ合わせて表現した作品(縦3・6尺、横5尺)。来場者にも参加してもらい、一つの作品を完成させました。「共同制作をする中で、町民と創作活動の楽しさを共有したかった。アートをより身近に感じてもらうきっかけになれば」と思いを語りました。



2



1

1_《重盤岩》は期間中に会場で公開制作を実施。来場者によって制作されたパーツが作品の一部として生かされている。2_6月24日(土)に原田真紀さん(インディペンデントキュレーター)と対談。住民と共に描くことの意味を問い、地域におけるアートの役割などを話した

Interview / 津奈木町の洋菓子店「あん・さんく」が本展とコラボレート



食と農とアートが融合し、素材によりこだわって

今回のコラボカフェとクッキーの企画は大平さんと昨年何回も打ち合わせを重ねてきました。右写真は「『波をつなぐ』津奈木のオーガニックや野菜や柑橘、周辺地域の果物を使ったスペシャルデザート」。使用したにんじんやとうもろこし、柑橘類は全て町の無農薬のもので、大平さんが作った器にのせました。クッキーやスイーツを食べながら会話が弾めばうれしいです。7月の出張カフェでは新しいメニューが登場しますのでぜひお越しください。※デザート…フランス語で「皿盛りのデザート」。

あん・さんく 長友 美波さん



Interview / 作品《重盤岩》制作に参加して



西平 彩音さん(川内)

みんなで作った大作

大平さんの作品を見て、いろんな色を使っていてきれいで感動しました。私は自然の絵を描くのが好きなので、美術館に行って一緒に作品を作りたいと思って参加しました。自分の作ったものが作品の一部になったときはうれしくてたくさんの人に見てもらいたいです。



自ら作ったパーツを《重盤岩》に貼り付ける来場者



アート × 感謝

3年間の感謝と津奈木町の
アートへの思いを込めて
大平 由香理さん

私が津奈木町のことを初めて知ったきっかけはアートでした。美術館の滞在制作作家として声をかけていただき、うれしかったことを昨日のことのように覚えています。個展を終えた後にはすっかり津奈木町の魅力にはまり、移住することになりました。

これまで10年近く国内外での作品発表や全国各地での滞在制作を続けてきましたが、津奈木町のアートの取り組みは世界的に見ても他に類を見ない活動が多くあります。国際的な芸術祭や一般的な美術館では入館者数や経済効果が評価基軸となることがありますが、一時的な数字を追いつめるだけのあり方に以前から私は疑問を感じていました。いくらお金をかけて打ち上げ花火のように一時的に注目されたとしても、よその成功事例を借りてきただけのアートはその土地で行う必然性がないので大概続くことはありません。ア

トは地域おこしのための一時的な公共事業ではなく、地域の課題を解決するためのものでもなく、むしろ問題提起や新たな見方や気付きの発見を促すものだと私は思います。津奈木町のアートの試みは時間をかけて丁寧に蓄積されているため、今後これからより一層社会にとって必要になっていくのではないかと確信しています。

任期終了後は秋から渡米し、マサチューセッツ州にある現代美術館に招聘され、作品制作をするようになりました。画家としても1人の人間としても成長し、町の魅力を世界に発信できる人間になりたいと思います。津奈木町で過ごした日々はかけがえない時間でした。町の皆さんに育てていただき、作品を描くことができました。いただいた気持ちを糧にアーティストとしてさらに成長することで、必ず町に還元したいと思っています。第二の故郷、津奈木町との縁は一生切れることはないと思うので、またお役に立てることがあれば気軽に声をかけてください。3年半本当にありがとうございました。